

道徳科の実践充実

井原市教育委員会 教育長

片 山 正 樹



「人生学道行」(人生は道を学んでいくもの)。「人、生まれて学ばざれば、生まれざると同じ。学んで道を知らざれば、学ばざると同じ。道を知って行うこと能はざれば、知らざると同じ。」これは二宮尊徳翁の言葉です。この言葉から引用し「人生学道行」を私の座右の銘として掲げています。人の道はまさに道徳の実践に沿うものでなければなりません。

小学校ではすでに特別な教科としての道徳と位置づけられています。中学校も続いたの実施であります。新たに道徳が教科として位置づけられた背景には、いじめの増加などが理由にあげられます。そのために道徳時間の確実な履行と、これまで心情の読み取りだけに終わりがちな道徳から、考え議論する道徳への変容がねらわれています。人としてあるべき道徳心の育成充実に繋がるものと期待されています。

道徳的価値の理解を高めるためには、自身とのかかわりの中で深めていけるかが一つの鍵にもなっています。その中の一つとして、地域教材の活用があげられます。

県教育委員会では県下の著名人を取り上げ、道徳教育郷土資料集を作成し、一年生から六年生までの指導に利用できる指導案まで掲載しています。本市では井原市生まれの彫刻家、

平櫛田中先生ひらくしでんちゆうの「鏡獅子」を取り上げていただいています。田中美術館には市内すべての学校の六年生が訪問する事業を展開しています。この事業から田中先生をより身近に感じ、先生の生き様や作品作りへの思いを通して不撓不屈の精神だけでなく、自分自身の将来の夢の創造にも役立っています。そのほかこの資料集には津田永忠、緒方洪庵、山田方谷、大原孫三郎、岡崎嘉平太、人見絹枝等々身近な人物の教材が揃えられています。ぜひ道徳の授業で活用していただきたいものです。

道徳的価値を身に付けさせるためには授業づくりだけでなく、評価の在り方も大きく関わってきます。今後の取組に期待されるところであります。

子貢が曰く「貧しくして へつらうこと無く、富みておごること無きは、何如」

子曰く、「可なり。いまだ貧しくして道を楽しみ、富みて礼を好む者には 若かざるなり」と答えました。

道徳で何を学び、どう生かすかは児童生徒への課題だけではなく、私たち一人一人にも試されています。日常生活の中で、学んだことを謙虚な姿勢で実践していきたいものです。